

# なびぜ! 大学に? 剥製が?



動物を愛した者の遺志が宿った剥製たち

2004年に惜しまれつつ閉園した栗林公園動物園。かつて飼育されていた動物たちの剥製が、香川大学博物館に保管されていることをご存知でしょうか。これらはすべて、栗林公園動物園に鳥類研究員として勤務されていた佐藤勤さんのご遺族から寄贈されたもの。佐藤さんの心を惹きつけています。

のもメリットです。他にも大学院生で、馬を絵画のモチーフにしている方がいて、作品展では剥製も一緒に展示しました。彼は今も制作活動を続けており、躍動感あふれる動物たちの絵画が、見る者の心を惹きつけています。  
**ホンモノを見て、何かを感じるきっかけに**  
近年、博物館や美術館でも「デジタル化」が進められています。しかしデジタル画像では、物の質感まで感じることはなかなか困難です。やはり自分の目で見てみると、わからないことがたくさんあると思うのです。私は、学生の皆さんには、ホンモノ・実物を見てほしい



栗林公園動物園跡地

藤さんは「子どもたちにホンモノに触れてほしい」と、地域の小学校やイベントに剥製を持って行き、動物たちを間近で観察できる機会を積極的に提供されていました。佐藤さんが生前、博物館に来館して剥製の寄贈を打診され、その想いを受け継いだご遺族が「教育や研究に活用してほしい」と寄贈されたのです。佐藤さんが製作した剥製の中には「種の保存法」によって現在では譲渡が禁止されている、学術的にも極めて貴重な種が多数含まれています。  
※種の保存法：絶滅のおそれがある野生動物植物の種を保全するための法律活用できる

香川大の幅広い学問に活用できる

剥製の魅力は、幅広い学問に活用できるところ。剥製を活用する場所としてイメージしやすいのは、畜産を学ぶ農学部だと思えますが、私の専門である地質学でも活用が可能です。例えば、博物館で保管しているミサゴの剥製。ミサゴは屋島にもいるのですが、どうしてそこに生息しているのでしょうか。このミサゴの剥製をきっかけに、屋島の地形や気象、そして地質までも考察することができそうです。学生たちに「屋島の地形の特徴は、ミサゴからも分かる」と言ったときに、大学内ですぐに見られる

と強く願っています。剥製を見て、何を感じるかは人によって違うと思いますが、それでいいのです。例えば、剥製で見た動物の機能が製品開発に活かせるかもしれません。「種の保存法」の対象になっている動物たちが、どうして世界的に保護されることになったのか、国際問題を考えるきっかけになるかもしれない。剥製を通して皆さんの好奇心を刺激し、何かしらの気づきを与え、きっかけになればいいなと思っています。香川大学博物館は、学内外を問わずにでも無料で入館できます。ぜひ気軽に訪れてください。

## 佐藤コレクション

佐藤コレクションは、鳥類を中心として、哺乳類、爬虫類など総数700点以上。香川大学博物館では、現在200点ほどを譲り受け、今後も順次受け入れ予定です。保管している剥製の一部は、高松市子ども未来館でも展示されています。※香川大学博物館での常設展示では、剥製の展示数が限られております。ご了承ください。



CAMPUS TREASURE

## もしかして! あの当時のナマケモノ!?

栗林公園動物園で特に人気だったのが、ナマケモノ。日本で初めて、ホフマンナマケモノの飼育を開始したことも話題になりました。佐藤コレクションのほとんどは、動物たちが生きていた姿を再現する「本剥製」の形で製作。まるで今も生きているかのようです。

栗林公園動物園 元鳥類研究員 佐藤 勤 (1932-2014)

動物たちに深い愛情を注ぎ、死んでしまった動物たちに第二の命を吹き込みたいと考えた佐藤さん。そうして思いついたのが、亡骸を剥製にし、後世に残すことでした。佐藤さんは三木町文化協会剥製部会会長としても活躍し、同会員らと剥製の製作技術を研鑽されました。

詳しくはこちら! 香川大学博物館 〒760-8521香川県高松市幸町1-1 TEL 087-832-1300 MAIL museum@kagawa-u.ac.jp 開館日 火曜日～土曜日 時間 10:00～16:00 入館料 無料

## 今回のナビゲーター



創造工学部 教授・香川大学博物館長 寺林 優 富山県入善町出身。東京大学大学院博士課程理学系研究科地質学専攻退学。2011年から工学部(2018年から創造工学部)教授。専門は地質学。